

Ⅱ 共通科目

保健医療福祉の連携・協働特論	135
研究と倫理	137
高等教育政策・教育方法特論	138
看護の発展と研究特論	140
リハビリテーションの発展と研究特論	141
生体反応と臨床応用特論	142
保健医療の社会的課題と対応特論	143
保健医療教育特論	144

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講 時期	単位数	時間 数	必修・選 択の別	科目等 履修生
保健医療福祉の連携・協働特論 (共通科目)	学 長・上月 正博 教 授・菅原 京子 教 授・加藤 浩 教 授・村 成幸 教 授・藤井 浩美	博士後期課程 1年	前期	2	30	必修	否
授業概要	高齢・人口減少社会の重要課題である保健医療福祉の連携・協働の必要性について深く理解する。また、連携・協働の構築過程（人材育成などの連携の基盤整備・実践・評価を含む）や連携・協働におけるシステム開発の方法と課題を探究する。さらに、山形県で展開されている連携・協働の全国的先進地をフィールドとして、関係機関や職種等との検討を行い、保健医療専門職の役割について考察する。						
一般目標	1. 保健医療福祉における連携・協働に関する概念の変遷、課題とそれに対する対応、様々な社会システムとの関連さらに国際的な動向について理解する。 2. 連携・協働の構築の基盤となる人材育成について、国際比較を含めて理解する。 3. 事例に基づいて連携・協働の構築過程やシステム開発の方法と課題を理解する。 4. 山形県で展開されている連携・協働の全国的先進地（山形県鶴岡市・庄内南部地域で展開されている連携・協働プロジェクト）について理解する。また各地の連携・協働プロジェクトについて考察する。 5. 以上を通して、保健医療福祉の連携・協働における保健医療専門職の役割について考察する。						
到達目標	1. 保健医療福祉における連携・協働に関する概念の変遷について説明できる。 2. 保健医療福祉における連携・協働の課題とそれに対する対応について説明できる。 3. 保健医療福祉における連携・協働と様々な社会システムとの関連について説明できる。 4. 保健医療福祉における連携・協働の国際的な動向について説明できる。 5. 連携・協働の構築の基盤となる人材の日本の状況（保健医療福祉の職種と資格制度）を説明できる。 6. 連携・協働の構築の基盤となる人材の欧米の状況（職種と資格制度）について説明できる。 7. 事例に基づいて連携・協働の構築過程やシステム開発の方法と課題について検討できる。 ● 難病療養支援における連携・協働 ● 運動機能低下の予防のための連携・協働 ● 日常生活活動向上のための環境整備における連携・協働 8. 山形県鶴岡市・庄内南部地域で展開されている連携・協働プロジェクトについて、構築過程、現状、課題について説明できる。 9. 各地で展開されている連携・協働プロジェクトについて考察し、意見交換ができる。 10. 保健医療福祉の連携・協働における保健医療専門職の役割について考察できる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	授業への参加状況（30%）、準備状況（30%）、発表・討議（40%）をレポートで評価する。						
授業形式	遠隔授業（一部、対面授業となる場合があります）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など	担当	
1		保健医療福祉における 連携・協働	保健医療福祉における連携・協働の概念の変遷				上月
2			保健医療福祉における連携・協働の課題とそれに対する対応				
3			保健医療福祉における連携・協働と様々な社会システムとの関連				
4			保健医療福祉における連携・協働の国際的な動向				
5	集中講義 (後日連絡)	連携・協働の構築の基盤 となる人材状況	日本と欧米の保健医療福祉 の職種/資格制度	NS			菅原 加藤 藤井
6				PT			
7				OT			
8		連携・協働の構築過程や システム開発の方法と 課題	難病療養支援における連携・協働				菅原 村
9			運動機能低下の予防のための連携・協働				
10			日常生活活動向上のための環境整備における 連携・協働				藤井
11		山形県鶴岡市・庄内南部 地域における連携・協働 プロジェクト	鶴岡市の連携の経緯・工夫点・今後の課題 (Net4U、地域連携パス)				非常 勤講 師

12			鶴岡地区医師会地域医療連携室が取り組む医療介護連携事業		非常勤講師
13・14	各地で展開されている連携・協働プロジェクト	各地で展開されている保健医療福祉の連携プロジェクトの報告・意見交換	連携・協働プロジェクトを調べ意見交換に向けた準備		菅原他
15	保健医療専門職の役割	保健医療福祉の連携・協働における保健医療専門職の役割についての討議			
教科書 参考図書	参考図書： ・WHO「World health report 2010 Health systems financing: the path to universal coverage」 ・筒井孝子「地域包括ケアシステムのサイエンス - integrated care 理論と実証」社会保険研究所、2014 ・菅原京子（研究代表）「ファイザーヘルスリサーチ振興財団国際共同研究報告書・地方分権下の保健福祉サービス提供体制と専門職の役割に関する日仏比較研究」2008 ・川村佐和子監修「難病看護の基礎と実践―すべての看護の原点として」桐書房、2014 ・公益社団法人日本リハビリテーション医学会監修「リハビリテーションと地域連携・地域包括ケア」治療と診断社、2013				
履修上の注意	実施日程は、受講者と協議して決定する。				
学生へのメッセージ	山形県鶴岡市・庄内南部地域（鶴岡市・三川町）は平成18年度から連携・協働に関する様々な先進的取り組みを行っています。地域住民の健康とQOL向上のためプロジェクト同士が有機的に連携している点も全国的に注目されています。現在進行している、「地域住民の医療と介護をつなぐヘルスケア・ソーシャル・ネットワーク Net4U」「鶴岡地区医師会地域医療連携室ほたる」「庄内南部地域連携パス推進協議会」「庄内プロジェクト：緩和ケア普及のための地域プロジェクト」については、それぞれホームページが開設されていますので、閲覧して授業に臨んでください。				
e-mail・研究室 (連絡先)	上月：学長室 kohzuki@yachts.ac.jp 菅原：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 藤井：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp 加藤：研究室36 hikato@yachts.ac.jp 村：研究室35 nmura@yachts.ac.jp				

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
研究と倫理 (共通科目)	非常勤講師・浅井 篤	博士後期課程 1年	前期	1	15	必修	否
授業概要	保健医療分野の研究活動を遂行するうえで、知っておくべき研究倫理について教授し、研究者のリーダーとしての責任ある態度と高い倫理性を涵養する。						
一般目標	1. 研究活動の遂行における研究倫理の意義が理解できる。 2. 保健医療分野に特徴的な研究倫理について理解できる。 3. 自己の研究遂行における責任ある倫理的行動を目指すことができる。						
到達目標	1. 研究倫理の意義を説明できる。 2. 研究における不正行為や問題となる利益相反を具体的に説明できる。 3. 保健医療分野の研究倫理における特徴を理解し、自己の研究に反映することができる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート (50%) : 「自己の研究について、起こりうる倫理的課題とそれに対する方策」 起こりうる具体的な課題が列挙できているか、その課題に対する具体策を説明できているかで評価 ・授業内でのショート・プレゼンテーション (20%) : 1~6回目 (学習内容の理解度、見解の論理性) ・意見交換への参加積極性 (30%) : 7~8回目の演習において、自分の意見を述べているか、他者の意見を踏まえて発展的に思考できているかを評価 						
授業形式	対面授業 (遠隔授業となる場合があります)						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1	5. 4. 15 (土) 2-5 5. 4. 16 (日) 1-4	研究と倫理の意義	研究倫理の意義 科学的合理性 ガイドライン、法	事前学習と復習	浅井		
2		研究における不正行為	ねつ造、改ざん、盗用の 実際、誠実な研究実施	事前学習と復習			
3		研究における利益相反	研究助成の申請と審査、 研究経費、研究組織	事前学習と復習			
4		研究成果と知的財産権	知的財産権制度、知的財産権 取得、著作権、知的財産活用	事前学習と復習			
5~6		保健医療分野の研究倫理の特徴	介入、侵襲、被験者保護、同 意取得、患者・市民参画など	事前学習と復習			
7~8		演習	自己の研究計画やデータ管理 に関する具体的課題について 討議	レポート			
教科書 参考図書	指定教科書はない。使用する資料は授業時および事前に配布する。 参考図書： 日本学術振興会『科学の健全な発展のために』、丸善出版、2015年、 黒木登志夫『研究不正 科学者の捏造、改ざん、盗用』、中公新書、2016年、 神里彩子、武藤香織編『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』、東京大学出版会、2015、 滋賀医科大学医学部附属病院臨床研究開発センター企画、田代志門監修、『研究倫理教材DVD』(2015年4月)、株式会社桜映画社制作 笹栗俊之・武藤香織編『シリーズ生命倫理学 医学研究』、丸善出版、平成24年、東京、Murphy, TF, Case studies in biomedical research ethics, MIT press, Cambridge, 2004. Gregory Pence Medical Ethics 8 th edition, McGraw Hill, New York., 2017.						
履修上の注意	本科目と併せ、学内で行われる、研究倫理の研修会、研究倫理eラーニングに必ず参加すること。						
学生への メッセージ	目的意識を持って臨んでください。						
e-mail・研究室 (連絡先)	浅井 篤 : aasai@med.tohoku.ac.jp 東北大学大学院医学系研究科医療倫理学分野 電話 022-717-8196、ファックス 022-717-8198						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講 時期	単位 数	時間 数	必修・選 択の別	科目等 履修生
高等教育政策・教育方法特論 (共通科目)	非常勤講師・光本 滋 非常勤講師・佐藤 浩章	博士後期課程 1年	前期	2	30	選択	否
授業概要	高等教育政策・制度と課題、高等教育における教育課程編成や評価方法、効果的な教育の方法論を教授し、保健医療系の高等教育における教育力を涵養する。						
一般目標	1. 高等教育政策・制度の課題と今後の方向性を理解する。 2. 高等教育における、カリキュラム・マネジメントを理解する。 3. 高等教育機関における授業を実施するために必要な知識と能力を習得する。						
到達目標	1. 高等教育政策・制度の動向を歴史・比較の視点から説明できる。 2. 高等教育政策・制度の問題について教育的な観点から考察できる。 3. 高等教育政策・制度に関する研究・実践上の課題を設定できる。 4. 今日の日本の高等教育の現状と教育における倫理的課題を説明できる。 5. 高等教育における、カリキュラム・マネジメントの方法を説明できる。 6. 高等教育における、効果的な複数の教育方法を説明できる。 7. 高等教育における効果的な授業設計ができる。 8. 高等教育における効果的な授業を実施できる。 9. 高等教育における授業において適切に学習評価ができる。 10. 高等教育における授業を改善することができる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	光本：授業への参加状況（15%）、準備状況（15%）、発表・討議（20%）をレポートで評価する。 佐藤：4つのポリシー調べ（5%）、シラバスとグラフィックシラバス（15%）、授業計画書（10%）、マイク ロ・ティーチングとそのリフレクション（20%）						
授業形式	光本：対面授業（遠隔授業となる場合があります。その場合はZoomで実施します） 佐藤：対面授業（遠隔授業となる場合があります。その場合はZoomで実施します）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1	5.8. 4 (金) 4-5 5.8. 5 (土) 2-6	高等教育政策の基礎(1)	人権としての教育 学問の自由と大学の自治、教育の自由 と権利、人間の発達と教育	事前に配布する 資料を読むこと	光本		
2		高等教育政策の基礎(2)	高等教育の法と制度 日本国憲法・教育基本法・学校教育法、 高等教育の制度と基準				
3		高等教育政策の動向(1)	日本における高等教育政策・改革の動向 専門職養成と継続教育、高等教育の種 別化、大学設置基準の改正				
4		高等教育政策の動向(2)	高等教育政策・改革の国際的動向 高等教育の拡大・国際化、教育内容・ 方法の革新、職業資格と継続教育の改革				
5		高等教育政策の現代的課 題(1)	高等教育政策・制度に関する研究動向の 検討	事前に配布する 資料を検討し、論 点を提示する			
6		高等教育政策の現代的課 題(2)	保健医療政策と高等教育				
7		高等教育政策の現代的課 題(3)	高等教育政策に関するプレゼンテーシ ョン・討議	プレゼンテーシ ョンの準備			
8	5.7.29 (土) 2-5	カリキュラムの基礎	・カリキュラムのマネジメント方法を説 明することができる。 ・カリキュラムと授業の関係を説明す ることができる。	事前課題：他大学 における4つの ポリシーを調べ てまとめてくる。 (必要標準時 間：3時間)	佐藤		
9		授業設計(1)	・インストラクショナル・デザインに基 づく授業設計手法を説明できる。 ・適切な目標を設定できる。 ・適切な教育方法を選択できる。	事前課題：授業設 計に関する映像 教材の視聴(必要 標準時間：3時 間)			
10		授業設計(2)	・適切な学習評価法を選択できる。 ・適切なスケジュールを立てることがで きる。 ・他者のシラバスを正しく評価できる。	事後課題：シラバ ス作成(必要標準 時間：3時間)			

11		教育方法（１）講義法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義法の定義を説明できる。 ・効果的なプレゼンテーション技法を実践できる。 	事後課題:マイクロティーチングの準備(必要標準時間:3時間)	
12	5.7.30(日)1-4	マイクロ・ティーチング	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロ・ティーチングを実践できる。 ・自ら並びに他者の授業の良い点、改善点を指摘することができる。 ・どのようにすれば授業を改善できるかを説明できる。 	事後課題:マイクロ・ティーチングのリフレクション(必要標準時間:3時間)	佐藤
13		教育方法（２）アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングの定義を説明できる。 ・アクティブラーニングの技法の中から自らの授業で使用可能なものを選択できる。 	事後課題:指導案の作成(必要標準時間:3時間)	
14		教育方法（３）オンライン教育	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン教育の定義を説明できる。 ・オンライン教育の技法の中から自らの授業で使用可能なものを選択できる。 	事後課題:指導案の作成(必要標準時間:3時間)	
15		学習評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標に沿って適切な学習評価方法を選択し、その評価指標と評価方法を設定できる。 	事後課題:シラバスの修正(必要標準時間:3時間)	
教科参考図書		<p>教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>参考図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本教育法学会編『コンメンタル教育基本法』学陽書房、2021 ・杉森みどり、舟島なをみ著『看護教育学』〔第7版〕医学書院、2021 ・堀尾輝久『人権としての教育』岩波書店、2019 ・細井克彦・石井拓児・光本滋編著『新自由主義大学改革』東信堂、2014 ・佐藤浩章編著『大学教員のための授業方法とデザイン』（玉川大学出版部、2010） ・中島英博編著『授業設計』（玉川大学出版部、2016） ・佐藤浩章編著『講義法』（玉川大学出版部、2017） ・中井俊樹編著『アクティブラーニング』（玉川大学出版部、2015） ・中島英博編著『学習評価』（玉川大学出版部、2018） ・佐藤浩章・栗田佳代子編著『授業改善』（玉川大学出版部、2021） ・ダネル・スティーブンス他著『大学教員のためのルーブリック評価入門』（玉川大学出版部、2014） 			
履修上の注意		佐藤:授業外学習の必要標準時間は平均値であり、学生によってその時間数は前後します。			
学生へのメッセージ		疑問を持つことと、自由な発想、それに対する批判的な吟味が重要です。積極的に討議へ参加してください。			
e-mail・研究室(連絡先)		光本 滋 : mitumoto@edu.hokudai.ac.jp 佐藤 浩章 : hiroakisato31@gmail.com			

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
看護の発展と研究特論 (共通科目)	教授・桂 晶子	博士後期課程 1年	前期	2	30	選択	否
授業概要	看護の発展を目指し、多様な看護研究方法について特徴を深く理解し、看護研究について多面的・包括的に論じることができることを探究する。さらに、医療機関等に勤務する看護職（看護実践者）の看護研究を指導できる実践能力を涵養する。						
一般目標	1. 博士前期課程で行った看護研究を研究方法・研究プロセスの視点から分析し、看護研究に関する理解を深めることができる。 2. 課題解決に適する看護研究方法の特徴を踏まえた研究デザインを探究することができる。 3. 看護実践者の気づきを尊重した一連の看護研究プロセスを、教員とともに指導できる。						
到達目標	1. 博士前期課程で行った看護研究について、研究方法と研究プロセスの視点から分析した結果から、看護研究の留意点を再認識できる。 2. 多様な研究方法の特徴を多面的に論じることができる。 3. 実践の場から報告されている多様な課題について、課題解決に向けた看護研究のデザインを作成できる。 4. 看護の実践者の気づきをもとに、実践者とともに研究計画書を作成できる。 5. 作成した研究計画書をもとに、実践者の研究プロセス（実践から発表まで）に沿って、教員とともに指導助言できる。 6. 看護研究の講義や助言指導を通して、看護実践の質の向上に役立つ看護研究について、多面的・包括的に探究し論じることができる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	一般目標に基づき、課題の論点や達成度・研究指導の内容を踏まえ、総合的に評価する。 課題の提出：プレゼンテーション（資料含む）：50% 課題レポート（研究計画書含む）：50%						
授業形式	対面授業（遠隔授業になる場合もあります）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1	毎週 金曜日 6限目	オリエンテーション	①実践の科学としての看護研究 ②看護研究のパラダイムと課題		桂		
2～ 3		修士論文の見直し	研究方法と研究プロセスの視点から 見直し、看護研究の論点をまとめる				
4～ 6		質的研究方法	質的研究の特徴と文献のレビューと クリティーク	質的研究についての 文献の収集と吟味			
7～ 9		量的研究方法	量的研究の特徴と文献のレビューと クリティーク	量的研究についての 文献の収集と吟味			
10 ～ 13		看護実践者と共同した看護 研究の具体的展開と指導	看護実践者との研究計画書の作成から、 発表までの指導助言を教員とともに 実践する	看護実践者とは十分に 意見交換をする。研究 内容について自己学習 を実施してください。			
14		看護実践者とともに研究 のプロセスの振り返り	看護実践者及び教員とともに、研究の 指導助言内容やプロセスについて、振 り返り意見交換する				
15		まとめ	課題や実践からの振り返りを通して、 看護実践の質の向上に向けた看護研 究を考察する	他の担当教員とともに 意見交換を行う			
教科書 参考図書	随時示します						
履修上の注意	博士前期課程で学んできた看護研究を振り返り、論理的に展開するプロセスとしての看護研究と、既習の知識や経験をもとにした看護研究指導の実践を行います。看護研究実践の展開では、教員がかかわっている看護研究相談・支援の場を活用し、看護職を対象とした指導や支援に参加していただきます。						
学生への メッセージ	博士前期課程で学び習得した看護研究の知識と技術を、実践の場の指導助言に活かすことによって、自己及び対象者の看護実践の向上につながると 생각합니다。看護実践者に対して、タイムリーで的確な指導助言が展開できるよう、自己学習を多く実施してください。						
e-mail・研究室 (連絡先)	桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講 時期	単位 数	時間 数	必修・選 択の別	科目等 履修生
リハビリテーションの発展と研究特論 (共通科目)	教授・菊池 昭夫 教授・村 成幸	博士後期課程 1年	前期	2	30	選択	否
授業概要	<p>神経と筋骨格の疾患を中心に、リハビリテーションの発展に寄与しうる研究の方法について教授する。中枢神経疾患、認知症、高次脳機能障がい、末梢神経疾患、筋骨系障がいの症候、臨床研究、測定解析方法についての新しい知見を解説し、知見とリハビリテーションを結び付ける方法を教授する。学んだ内容に基づいて、リハビリテーションの診療で抱いた疑問を自ら明確化し、関連する先行研究を見つけ、先行研究を評価し、自分の疑問に関していまだ未解決な点を特定する手順を経験させる。残された疑問点が解決された場合、リハビリテーションにどのような寄与を行えるのかを考えさせる。疑問の解明方法を発案し、その案の不備を批判的に見出す練習をする。</p>						
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経と筋骨格の疾患の症候、臨床研究、測定解析方法についての新しい知見を理解する。 2. 抱いた臨床的疑問を明確に表現できる。 3. 疑問に関わる文献を見つけ、批判的に吟味、整理することができる。 4. 疑問が解決した場合、リハビリテーションのどの部分にどのような影響を与えるか予想できる。 5. 疑問の解決に必要な方法を考え、方法の不備を批判的に発見し、変更を重ねることができる。 6. 以上により、疑問から臨床研究、リハビリテーションを一連のものとして捉えることができる。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経と筋骨格の疾患の症候、臨床研究、測定解析方法についての知見の要点を文章に書くことができる。 2. 抱いた臨床的疑問を授業参加者に分る言葉や図に表せる。 3. 疑問に関わる文献を持参し、優れた点と問題点を述べることができる。 4. 疑問が解決した場合、リハビリテーションのどの部分にどのような影響を与えるか列挙できる。 5. 疑問の解決に必要なと思う方法を言葉や図で示せる。 6. 上で示した解決方法の不備を挙げ、変更したものを言葉や図で示せる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	目標達成度 (40%)、討議への寄与 (60%) をレポートで評価する。						
授業形式	対面授業 (遠隔授業となる場合があります)						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1 ～ 15		<p>1 回目は菊池が中枢神経疾患、認知症、高次脳機能障がいの症候、臨床研究、測定解析方法についての新しい知見を、2 回目は村が末梢神経疾患、筋骨系障がいの症候、臨床研究、測定解析方法についての新しい知見とリハビリテーションとの関連を解説する。</p> <p>3 回目以降は、初日に学生が疑問を持った症例について発表後、討論。2 日目は学生と教員が用意した文献を批判的に検討、未解決問題を見出す。3 日目は学生が問題解決のための方法を提案 (発表)、討論後、不備な点を解決した案を再発表する。このサイクルを繰り返し、最終回に研究方法について全体的な討論とまとめを行う。</p>	過去の研究を review しつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておくこと	菊池 村		
教科書 参考図書	随時紹介する。						
履修上の注意	実施日程は、受講者と協議して決定する。						
学生への メッセージ	疑問を持つことと、自由な発想、それに対する批判的な吟味が重要です。積極的に討議へ参加してください。						
e-mail・研究室 (連絡先)	菊池：研究室 38 akikuchi@yachts.ac.jp 村：研究室 35 nmura@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等履修生					
生体反応と臨床応用特論 (共通科目)	名誉教授・八巻 通安	博士後期課程 1年	後期	2	30	選択	否					
授業概要	人体の機能調節が健常時・病態時にどのような機構でなされているか、それともなう生体反応がどのようなものなのか。またや機能不全のさいに検出された生体反応が治療展開とともにどのように変化するかについて理解を深める。											
一般目標	健常時の機能調節や生体反応を理解する。 機能異常時における機能の代償機構や生体反応を理解する。 疾患の治療によっておこる生体反応の変化を理解する。											
到達目標	健常時の機能調節・生体反応を説明できる。 機能不全のさいの代償機構・生体反応を説明できる。 疾患の治療ともなう生体反応の変化を説明できる。											
成績評価方針 評価方法 および基準	グループ討議：50% レポート提出：50%											
授業形式	対面または遠隔講義											
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当							
1 2 3	集中講義 (後日連絡)	臓器機能と生体反応	呼吸機能と生体反応 心機能と生体反応 腎機能と生体反応	文献を紹介するので 事前学習をしておく こと	八巻							
4 5 6 7 8 9		機能異常時の代償機構と生体反応	急性呼吸不全における生体反応 慢性呼吸不全における生体反応 急性心不全における生体反応 慢性心不全における生体反応 急性腎不全における生体反応 慢性腎不全における生体反応									
10 11 12 13 14 15		疾患の治療ともなうと生体反応の変化	急性呼吸不全において 慢性呼吸不全において 急性心不全において 慢性心不全において 急性腎不全において 慢性腎不全において									
教科書 参考図書		講義で使用する資料は配付します。										
履修上の注意		英語論文を教材として使用します。英語辞書を持参してください。										
学生への メッセージ		積極的に討論に参加してください。										
e-mail・研究室 (連絡先)		八巻通安：myamaki@yahoo.co.jp										

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講 時期	単位 数	時間 数	必修・選 択の別	科目等 履修生
保健医療の社会的課題と対応特論 (共通科目)	非常勤講師・加藤 智章 非常勤講師・宮坂 道夫	博士後期課程 1年	後期	2	30	選択	可
授業概要	今日の保健医療の社会的課題として重要である「社会保障制度適用の課題」「医療倫理の課題」を取りあげ、課題状況と対応について深く探究し、専門職として保健医療の社会的課題に向き合う姿勢と能力を涵養する。						
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療の社会的課題である「社会保障制度適用の課題」について理解する。 2. 「社会保障制度適用の課題」への対応と今後の方向性を理解する。 3. 保健医療の社会的課題である「医療倫理の課題」について理解する。 4. 「倫理的課題」への対応と今後の方向性を理解する。 5. 専門職として保健医療の社会的課題に向き合う姿勢を考察できる。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本における社会保障制度体系について、歴史的視点を踏まえ説明できる。 2. 保健医療に関する社会保障制度適用の課題について、具体例(判例)を用いて説明できる。 生活保護との関係、年金との関係、医療保険・介護保険との関係 3. 上記の課題への対応と今後の方向性について、国際比較を踏まえて説明できる。 4. 医療倫理の歴史と方法について説明できる。 5. 医療各分野(死と喪失、性と生殖、個人の権利と公共の福祉、先端医療等)において生じる倫理的諸問題を分析し解決するための計画を立案できる。 6. 専門職として保健医療の社会的課題に向き合う姿勢を考察できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	<ol style="list-style-type: none"> 1～7回：授業への参加状況(15%)、準備状況(15%)、発表・討議(20%)をレポートで評価する。 8～15回：(1)講義の中で医療倫理の歴史的背景と現状の問題・課題についての討議を行い、その中で受講者の理解度を評価する。(25%) (2)講義の中で医療各分野の事例を題材に倫理的問題の分析を行い、それを解決するための計画をどの程度示せるかを評価する。(25%) 						
授業形式	加藤：対面授業(遠隔授業となる場合があります。) 宮坂：ZOOMを用いた遠隔授業						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習 など	担当		
1		日本における社会保障制度体系	日本の社会保障制度の歴史				
2			今日の社会保障制度の体系				
3 ～ 5		保健医療に関する社会保障制度適用の課題	保健医療に関する社会保障制度適用の課題 ・生活保護との関係 ・年金との関係 ・医療保険・介護保険との関係 ・国民健康保険法改正 以上について立法資料等を用いて検討する				加藤
6 ～ 7		社会保障制度の課題への対応と方向性	国際比較の観点から見た課題対応 社会保障制度適用の課題に対する専門職としての関わり・討議	プレゼンテーションの準備			
8 ～ 9		医療倫理の歴史と方法	医療倫理の歴史と方法 ・倫理原則、四分割法 ・ナラティブ・アプローチ、倫理調整				
10 ～ 11		医療倫理の課題と対応(1)	医療倫理各領域の課題と対応 ・死と喪失 ・性と生殖	実際の臨床事例についての分析			宮坂
12 ～ 13		医療倫理の課題と対応(2)	医療倫理各領域の課題と対応 ・個人の権利と公共の福祉 ・先端医療				
14 ～ 15		専門職としての医療倫理の課題への対応	医療倫理の課題に対する専門職としての関わり・討議	プレゼンテーションの準備			
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・松本勝明編「医療制度改革 - ドイツ・フランス・イギリスの比較分析と日本への示唆」、旬報社、2015 ・加藤智章/菊池馨実/倉田聡/前田雅子「有斐閣アルマ社会保障法」第8版、有斐閣 ・加藤智章編「世界の病院・介護施設」法律文化社2020年 ・宮坂道夫「医療倫理学の方法-原則・ナラティブ・手順」第3版、医学書院、2016 ・Deborah Oughton et. Social and Ethical Aspects of Radiation Risk Management, Volume 19 (Radioactivity in the Environment), 2013 						
履修上の注意	実施日程は、受講者と協議して決定する。						
学生へのメッセージ	疑問を持つことと、自由な発想、それに対する批判的な吟味が重要です。積極的に討議へ参加して下さい。						
e-mail・研究室 (連絡先)	加藤 智章：truite0641y@yahoo. co. jp 宮坂 道夫：miyasaka@clg. niigata-u. ac. jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間 数	必修・選 択の別	科目等 履修生
保健医療教育特論 (共通科目)	教授・藤井 浩美 名誉教授・佐竹 真次	博士後期課程 1年	通年	4	60	選択	否
授業概要	保健医療専門職養成の教育内容の最新知見を基に理解できるようにする。						
一般目標	保健医療専門職養成の教育内容の最新知見を基に説明できる。						
到達目標	認知領域：保健医療専門職教育を理解し、より高品質な教育内容を理解できる。 情意領域：客観的知見に係わる全容を説明できる。 精神運動領域：最新の情報を収集できる。 以上を通じて、保健医療教育を実践できる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	グループ討議度：25%（6回）とレポート 討議への参加度：25%（6回）とレポート 最終レポート：50% 保健医療専門職の教育開発が可能か否かを判定する。						
授業形式	対面授業を基本とするが、状況により遠隔授業（録画形式または配信形式）で実施する。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1-4	後日連絡	保健医療専門職の教育	ICF を基本に教育のあり方を説明できる。		藤井		
5-8		科目と授業設計	カリキュラム構成やシラバス作成ができる。		藤井		
9-12		臨床実習指導法	臨床実習教育目標や指導法および学生評価を説明できる。		藤井		
13-16	5. 7. 22 (土) 1-6	教育の役割	保健医療専門職に至るまでの系統的教育の役割を学び、討議で定着する。		佐竹		
17-20	5. 7. 23 (日) 1-6	青年心理・教育心理	青年と教育心理を理解し教育に反映できる。		佐竹		
21-24		教授方法と教育評価	方法を理解し定着させる。		佐竹		
25	後日連絡	保健医療専門職と社会保障制度	社会保障制度を教育者の側に立って説明できる。		藤井 スポット		
26		臨床実習のあり方	臨床実習教育を説明できる。		藤井 スポット		
27		青年期の心理的特徴	青年期心理を理解し、教育に反映できる。		藤井 スポット		
28		教育研究法	教育研究法を理解し、定着させる。		藤井 スポット		
29		授業と成績評価	授業と成績評価ができる。		藤井 スポット		
30		管理と運営	保健医療専門職養成に必要な管理と運営を理解する。		藤井 スポット		
教科書 参考 図書	必要に応じて資料を配布する。						
履修上の注意	講義日程は、受講者の状況（一般・社会人）によって変更可能ですので、事前にご相談ください。						
学生への メッセージ	目的意識を持って臨んでください。						
e-mail・研究室 (連絡先)	藤井 浩美：研究室 27 hfujii@yachts.ac.jp 佐竹 真次：g.ssatake@yachts.ac.jp						